

12/16玉旗

辺野古「不承認を支持」

新基地工事 識者51人が共同声明

有識者らで構成される「普天間・辺野古問題を考える会」（代表・宮本憲一、大阪市立大名誉教授）は14日、沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設をめぐり、玉城デニー知事が11月25日に決定した設計変更の不承認を支持し、埋め立て工事を直ちに停止するよう求めた51人連名の共同声明を発表しました。

声明は、知事が不承認理由として、軟弱地盤の改良工事に伴う変更申請にもかかわらず、地盤の調査

が不十分であり、必要な力学的試験も行われておらず、公有水面埋立法4条の要件（国土利用の合理性、災害防止への配慮など）を満たしていないと判断したことは「法的に見て不承認理由としては必要十分」だと指摘しています。

声明は、宮本氏のほかに桜井国俊・沖縄大名誉教授、白藤博行・専修大教授、古閑彰一・獨協大名誉教授、作家の澤地久枝氏などが名を連ねています。

また、沖縄防衛局が不承認処分への対抗措置として、行政不服審査法に基づいて、

工事に伴う変更申請にもかかわらず、地盤の調査